

# FLORA of KOCHI

No. 37

The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

## 探してみよう！ 秋冬編

### ヒシ属 (ミソハギ科)

*Trapa* L.

ヒシ属は葉がロゼット状に広がる浮葉植物です。高知県にはヒシ、ヒメビシ、コオニビシ、オニビシの4種類が確認、記録されています。高知県レッドリスト2010では、ヒメビシが絶滅危惧種(高知県EN, 環境省VU)に、オニビシは、南国市と高知市の情報(山中1978)について確認が取れおらず情報不足(DD)となっています。

ヒシ属では、葉のサイズや鋸歯、花色は変異が大きく、区別の決定打にはなりません。種の同定のためには、果実が不可欠です。果実にあるトゲは、がく片が発達したもので、日本にはトゲが2本のものと4本のものが分布し、トゲの数と果実の大きさで同定します。自生地では複数の種が混生することがあり、成長不良や成長初期でトゲが未発達の実も混ざるため、1コの果実だけでは誤同定の危険があります。必ず複数の果実を確認することが重要です。秋から冬には、果実は岸に流れ着いたり、水底に沈んだりしていますので、まずはそれらを観察するとよいでしょう。トゲが4本の種の標本を作る際には、トゲをペンチで曲げるなど、ケガのないよう注意して下さい。



ヒシ



ヒメビシ



コオニビシ



オニビシ



ヒシの小さい個体



ヒメビシ

### 高知県でのヒシ属の区別点

和名	学名	果実の刺の数	果実の全幅	果実中央の子房突起
ヒシ	<i>Trapa jeholensis</i> Nakai	2本	30 - 50mm	突出する
ヒメビシ	<i>T. incisa</i> Siebold et Zucc.	4本	約20mm	突出しない
コオニビシ	<i>T. natans</i> L. var. <i>pumila</i> Nakano ex Verdc.	4本	30 - 50mm	突出する
オニビシ	<i>T. natans</i> L. var. <i>quadrispinosa</i> (Roxb.) Makino	4本	45 - 75mm	突出しない

#### 【参考文献】

角野康郎 (1994) ヒシ属, 日本水草図鑑: pp.128-129. 文一総合出版, 東京  
 山中二男(1973) ヒシ属, 高知県の植生と植物相: pp.320. 林野弘済会, 高知  
 米倉浩二(2016) ミソハギ科ヒシ属, 大橋広好, 門田裕一, 邑田仁, 米倉浩二, 木原浩 (編). 日本の野生植物3: pp260-261. 平凡社, 東京.



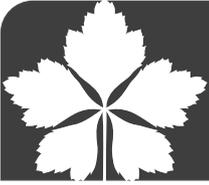
ヒメビシ(矢印)とヒシ(日高村1995年7月)

### ★水草を調査・採集する時の注意点★

- ・ 一人で行かない。家人に行き先を伝える。
- ・ 草などで見えづらくなっている場所は踏まない。
- ・ 泥深いところ、滑りやすそうなところに注意し、危なそうと思ったら、棒などで探りながら進む。
- ・ 足場が不安定だと、体力を消耗しやすいので、無理をしない。疲れたら切り上げる。

※安全な場所に打ち上げられている果実を見るのが手っ取り早い。





# 高知県の植物 ニュース

## ■ 新産・再確認外来植物

文・写真：坂本 彰・依光 忠宏

牧野植物園が中心になって市民参加型で行う外来植物調査が始まります。それにちなんで最近発見・再確認された外来植物を紹介します。これらは確認された場所が限られており、今後定着して分布を広げるのか注視する必要があります。

### ツノアイアシ

*Rottboellia cochinchinensis* (Lour.) Clayton

本種はイネ科ツノアイアシ属*Rottboellia*の大型の一年草です(茨木2016)。2016年8月8日、土佐山田町北本町一丁目で採集しました。植物体は大きく、高さは大人の身長に達する豪壮な植物で、一度見ると忘れられない特徴を有しています。頂生する穂状花序の長さは約10cmで、在来種のウシノシッペイによく似ています(写真1-1)。成熟すると穂状花序は6mm程度の節ごとに折れ、標本にすると花序がバラバラになって、取り扱いに苦慮します。

8月28日に筆者らを含む物部調査チーム4名で分布状況を調査したところ、造成地の法面のほか(写真1-2)、隣接する道路の路肩にも生育が確認されました。ただ、道路の路肩に生育するものは道路管理のために刈り取られ、花序をつけているものはごくわずかでした。今後定着するのか継続した調査が必要です。



写真1-1 花序



写真1-2 生育地の様子  
(2016年8月28日 香美市)

### イリノイヌスビトハギ

*Desmodium illinoense* A. Gray

マメ科ヌスビトハギ属*Desmodium*の多年草で(大橋 2003)、「高知県の植生と植物相」(山中 1978)に高知市種崎の記述があるものの、高知県植物誌調査およびその後の調査において確認されず、存在を明らかにすることが課題になっていました。

2016年9月8日に高知市仁井田種崎の休耕畑で発見し、採集しました(写真1-3)。成長した個体は高さ1mほどにもなり、個体数も50株はあることから、これまでの調査で見落とされていた可能性は低く、間欠的に出現するのではないかと考えていました。ところが、9月24日に現地を調査すると幼苗状態のものを除きすべて抜き取られていました。調査と除草の時期の関係でこれまで見つからなかった可能性もあります。

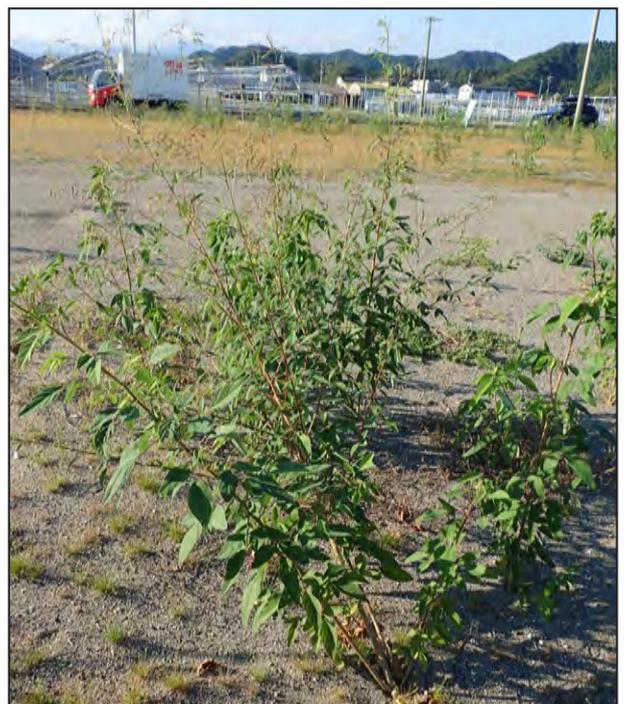


写真1-3 生育地の様子 (2016年9月8日 高知市)

近縁種のアレチヌスビトハギ *D. paniculatum* (L.) DC. は托葉が早落し基部は茎を抱かないのに対し、イリノイヌスビトハギは托葉が宿存し茎を抱きます。加えて、写真1-4に示すとおり、節果の形状が異なるため果期には容易に識別できます。

【引用文献】

大橋広好. 2003. マメ科イリノイヌスビトハギ. 清水健美(編). 日本の帰化植物. pp.106. 平凡社. 東京.  
 茨木 靖. 2016. キビ亜科ツノアイアシ属ツノアイアシ. 大橋広好, 門田裕一, 邑田仁, 米倉浩二, 木原浩(編). 日本の野生植物1: pp.94. 平凡社. 東京.  
 清水矩宏・森田弘彦・広田伸七(編著). 2001. 日本帰化植物写真図鑑. 554pp. 全国農村教育協会. 東京.  
 山中二男. 1978. 高知県の植生と植物相. pp. 287. 高知県林野弘済会. 高知.



写真1-4 節果の比較。イリノイヌスビトハギ(上), アレチヌスビトハギ(下)

## ■ チャボイ群生

文・写真: 山ノ内 崇志

チャボイ *Eleocharis parvula* (Roem. et Schult.)

Linkは、汽水域の湿地に生えるカヤツリグサ科ハリイ属の小さな植物です。ヨーロッパやアフリカ、シベリア、南北アメリカに広く分布します(大井1982)。しかし、日本では干潟の埋立てなどで減少し、現在環境省では絶滅危惧II類(VU)、高知県では準絶滅危惧種(NT)とされています。

今年の夏、高知市でチャボイの大群落が見つかりました。生育しているのは、久万川から国分川にかけての2.5kmほどの範囲です。一部では広い群落になって、干潮時には干潟に緑のカーペットが広がります。また、干潟だけでなく、護岸のコンクリートの割れ目にも生育しています。下流にも流されたチャボイが広がりがつつあり、今後の変化が注目されます。このほかにも、付近にはイセウキヤガラ(高知

県VU)、コアマモ(高知県NT)、リュウノヒゲモ(高知県VU、環境省NT)といった汽水域に生育する絶滅危惧の水草を見ることができます。

【引用文献】

大井次三郎. 1982. イグサ科チャボイ. 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・巨理俊次・富成忠夫(編)日本の野生植物草本I 単子葉類: pp.172. 平凡社. 東京.



写真2-1 チャボイの塊茎



写真2-2 干潮時に現れたチャボイの群生(2016年8月6日 高知市)

## ■ 外来植物調査ご協力をお願い

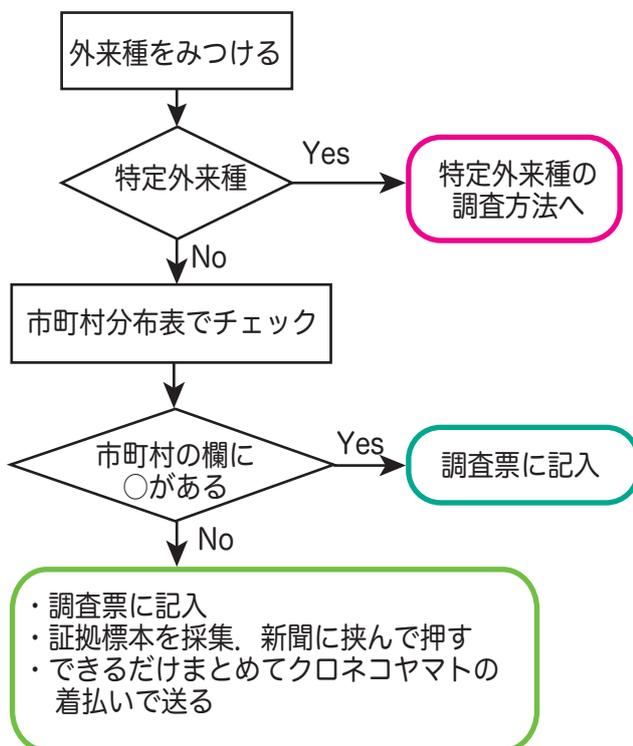
外来植物は、在来の植物の生育場所を奪ったり、地域に独特な景観を壊したり、世界各地で問題になっています。高知県ではどうでしょうか？外来植物が、どこにどれくらいあり、どんな問題を引き起こしているのか知るため、今年から外来植物の調査を始めます。

2018年度には、市町村の外来植物の各種の有無を調べ、「注意すべき外来種」をリストアップし、ブルーリスト

(外来植物の市町村別分布リスト)を作成します。さらに、2020年には、各種の分布や侵入の経緯、特徴を掲載したブルーデータブックを発行したいと考えています。

今年度は、来年度からの本調査に向けた準備期間として、予備調査を行います。ご協力いただける方には、①外来植物市町村別分布リスト、②調査票、③地図(新しいメッシュ地図)をお送り致しますので、担当までご連絡下さい。

### 【調査の方法】



### 特定外来種の調査方法

- ① 確認した全ての地点で調査票に記入
- ② 証拠標本を採集
- ③ 新聞に挟んで押す 乾燥剤と一緒にチャック付ビニール袋に入れる
- ④ できるだけまとめてクロネコヤマトの着払いで送る

※ 標本の作製に不安のある方は下記までご連絡下さい。

※ 標本はできるだけまとめてお送り下さい。

※ 標本を直接お持ち頂く場合、平日9:00~17:00以外はご面倒ですがご連絡下さい。

※ 調査票のみ送付頂く場合は、ご相談下さい。

【送付先】〒781-8125 高知市五台山4200-6 牧野植物園

【連絡先】

TEL:088-882-2673(標本庫直通) FAX:088-882-8635

E-mail: gairai\_kochi@makino.or.jp

(外来植物調査担当窓口: 田邊)

## ■ 植物に関する問い合わせ

毎週火曜日(休日の場合はその翌日)に植物研究課の田邊、前田が高知県の植物のお問い合わせに対応しています。写真では同定できない種類がありますので、押し葉状態(仮押しでも結構です)にしたものをお持ちいただくか、お送り下さい。

植物に関する全般のお問い合わせは、月・水・金の16時から17時まで、教育普及課の職員がお答えします(Tel:088-882-2723)。

## ■ 編集後記

本号では2種の外来植物について、坂本彰氏、依光忠宏氏にご執筆、写真を提供頂きました。厚く御礼申し上げます。

皆様のご協力により県内の植物の研究は少しずつ進んでいます。なお今後一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

No.37の発行担当: 前田綾子・山ノ内崇志・鴻上泰・田邊由紀・藤川和美

★原稿募集中! 高知県の植物に関するニュース、トピックお待ちしております。